

## 就任ご挨拶

私、この度、公益財団法人日本農林漁業振興会理事長に就任致しました 中家 徹 でございます。

半世紀以上の歴史を持つ農林水産祭を運営する日本農林漁業振興会理事長の責任の重さを感じるとともに、また、誇りにも思うところであります。

就任に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

農林水産祭は、農林水産省と当会が共催で実施する事業であり、毎年11月23日の勤労感謝の日を中心として、国民の農林水産業と食に対する認識を深めるとともに、農林水産業者の技術改善と経営発展への意欲を高め、その普及を図るため、昭和37年度から国民的な祭典として実施されてきている事業であります。

この農林水産祭事業は二つの大きな柱から成り立っています。

一つは、天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞のいわゆる三賞の表彰と受賞された方々の業績の普及啓発を目的とした顕彰普及関係事業です。三賞は、毎年約10万を超える参加者からなる農林水産祭各種行事の中で農林水産大臣賞を授与された約500名の方々の中から特に優秀として選ばれた方々に与えられているものです。

もう一つは、「実りのフェスティバル」として、国や都道府県で開発された技術の展示、全国から集められた農林水産物の展示・即売、農林水産関係団体の業績紹介や物産

の展示・即売を行い、消費者の方々への農林水産業のすばらしさなどをPRする啓発関係事業です。また、本フェスティバルには毎年皇室のご視察を仰いでいるところです。

これらの事業は、農林水産業者の方々には大きな励みと誇りとなり、また、消費者の方々には農林水産物の実りに感謝し、食に関する認識を深めるものとして、大きな役割を果たしてきたものと確信しております。

今年の農林水産祭は半世紀を超えた第56回目であり、スタートした昭和37年当時とは時代も社会も大きく様変わりしてきており、私がこれまで携わってきました農林水産業に係る様々な役職を通じて得た経験も活かしつつ、時代に対応した農林水産祭事業の展開に邁進してまいり所存でありますので、今後とも皆様のご理解とご支援を切にお願い申し上げます。

以上、簡単でございますが就任のご挨拶とさせていただきます。

平成29年9月

公益財団法人日本農林漁業振興会  
理 事 長 中 家 徹